

4. リユース食器活用の優れた点

▽脱・使い捨て社会を目指して

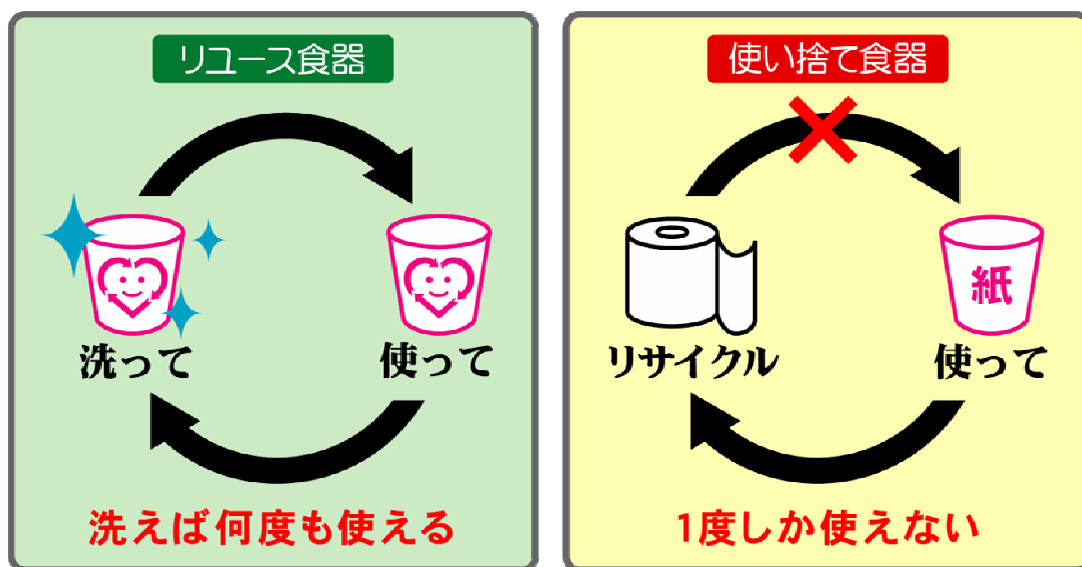
2000年5月に制定された循環型社会形成推進基本法は、国の環境政策の優先順位として、①発生抑制（リデュース・Reduce）②再使用（リユース・Reuse）③資源化利用（リサイクル・Recycle）という順を示しました。リサイクルは言葉として最も定着していますが、なぜリサイクルよりリユースが優先されるのでしょうか。

リサイクルは私たちの見えないところで多くの手間とエネルギーが投入されています。例えばプラスチック容器をリサイクルする場合、手選別で単一の素材に純度を上げていく過程が必要になります。その後新たなエネルギーをかけて繊維などに加工されています。環境全体への影響という視点からみれば、リユースはごみを減らすだけでなく、省資源・省エネルギーにも有効です。

しかし、最近ではリサイクルに押されたり、消費行動の変化によって、リユースの仕組みが衰退してきました。例えば、一昔前まではリユースされていた瓶（一升瓶など）は使用量が激減し、使い捨てのびんにとって替わられています。また、缶やペットボトル、紙容器などのリサイクルを前提とした容器が非常に多くなってきました。

容器包装リサイクル法等が整備され、法的にも社会的にもリサイクルのシステムができていますが、ごみの発生源を減らすというリデュース（reduce）社会やリユース社会の形成は一步も二歩も出遅れています。

このような社会的背景の中で、リユース食器や洗浄システムを準備して、イベントからごみをなくそうという動きが市民の間から起きています。リユース食器利用のムーブメントを更に大きくし、循環基本法の理念に基づいた脱・使い捨て社会の形成を進めましょう。



▽コストダウン効果

リユース食器を用いることでイベント経費のコストダウンに結びついた例があります。日本全国に 1000 店以上あるライブハウス・クラブ（屋内の小規模な音楽イベント空間）では、飲み物の提供に紙コップ・プラスチックカップが使われてきました。リユースカップを購入したライブハウス・クラブでは、紙コップ・プラスチックカップ購入のための費用が削減に結びついています。また、それら使い捨てカップのごみ処理費用の削減という点でも効果を上げている例があります。

実際にはコストの面での優位性が出てこないこともあります。その場合でも、環境面や社会の意識変革という面で、コスト負担を補って余りある良さや意義がリユース食器にはあります。

コストダウンの例

集客数 150 人のライブハウスの場合

使い捨てカップ平均価格 10 円（税抜き）

1 日：1575 円（10 円×150 個×税） 1 ヶ月：47,250 円（1,575 円×30 日）

1 年：574,875 円（1,575 円×365 日）

* 導入時のリユースカップ購入価格は 1 個あたり税込み 105 円。300 個導入した場合でも容器代は 31,500 円であり、容器破損分を補充した場合でも使い捨てカップ利用よりコストが低下する。

▽協賛企業のイメージアップ効果

企業の社会的責任（CSR）の一環として、リユース食器導入を後押しする動きがあります。リユース食器の導入時にスポンサーとして協賛金を提供したり、リユース食器の一部に企業のロゴ等を印刷し、広告媒体として利用する企業があります。リユース食器は、実際の利用者からその意義が高く評価されており、環境に配慮した企業姿勢を市民（市場）にアピールする有効な媒体として利用できます。

協賛企業の例

大手携帯電話事業者・・・・・・・・・・映画館

飲料販売事業者・・・・・・・・・・音楽イベント

サッカーチームの筆頭スポンサー企業・・・サッカー場

大手電力系事業者・・・・・・・・・・サッカー場

リユース商品取り扱い事業者・・・・・・・・サッカー場

▽リユースは環境負荷を低下させる

リユース食器を使った場合、環境に対してどの程度の効果があるのでしょうか。環境に対する影響（環境負荷）を考える際に、LCA という方法があります。LCA とは、Life Cycle Assessment（ライフサイクルアセスメント）の頭文字をあわせたもので、製品がつくられる過程から廃棄されるまでのすべての工程での環境負荷を総合計して評価する考え方です。環境負荷とは、製品の製作に投じられるエネルギーや天然資源に始まり、環境に

排出される汚染物質や廃棄物までを含みます。環境負荷の具体的な項目としては、エネルギー使用量や水使用量、二酸化炭素排出量、硫黄酸化物排出量、窒素酸化物排出量、固形廃棄物排出量です。

大分のサッカースタジアムで用いられたリユースカップの環境負荷を調べた調査*によりますと、リユースカップを一定回数利用することで、紙コップよりも環境負荷が低くなることが分かっています。

一万人以上規模での例（大分スポーツ公園総合競技場の場合）

比較項目	環境負荷
エネルギー消費量	6.3 回以上のリユースカップの利用で紙コップより環境負荷が低くなる。
水消費量	2.7 回以上のリユースカップの利用で紙コップより環境負荷が低くなる。
二酸化炭素排出量	2.7 回以上のリユースカップの利用で紙コップより環境負荷が低くなる。
固形廃棄物量	4.7 回以上のリユースカップの利用で紙コップより環境負荷が低くなる。

（比較基準）紙コップのライフサイクルにおけるエネルギー消費量

まとめ リユースカップは複数回利用してこそ意味があります

*東京大学生産技術研究所による調査結果。『平成 15 年度リユースカップの実施利用に関する検討調査報告書』（(財)地球・人間環境フォーラム）

→報告書参照 <http://www.gef.or.jp/reuse/index9.htm#H15>